
スマ村のみんなの生活

スマッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマ村のみんなの生活

【Nコード】

N8261Y

【作者名】

スマッシュ

【あらすじ】

長くなると思いますががんばります
みんな見てくれよ。

その前のみんなは行く準備 プロローグ（前書き）

さて、かききれるかな？

その前のみんなは行く準備 プロローグ

キノコ王国

こんにちは・・・

??? 「マリオさんとルイーダさんお手紙です」

マリオ 「おおパレッタご苦労さんどこからの手紙？」

パレッタ 「えーと、この世界のマスターハンドさんからです」

マリオ 「また、あいつか・・・」

ルイーダ 「そうだね・・・」

??? 「こんにちわ」

マリオ 「あれ？ピーチ姫？何しているんですか？」

ピーチ 「私にもその手紙と同じ内容よ。もしかしてまだ、読んでない？」

マリオ 「うっうん・・・」

ピーチ 「読んでみれば？」

ルイーダ 「兄さん読んでみよう！」

封筒の中にはこんな手紙があった。

マリオ殿へ

マリオさん、あなたはスマッシュブラザーズ一員なので今から至急この世界へ来てください。

この手紙を持って来てください。では、後ほど。

マリオ 「ふーん」

ルイーダ 「行こうよ兄さん」

マリオ 「ああそうだな！」

ピーチ 「うふふふ」

ジャングル

??? 「うほ〜」

??? 「うきやきやきや」

こいつらはドンキーとディディーである。

ドンキー「うほ〜（おい、ディディーこの手紙なんだ？）」

ディディー「うきゃきゃ（これはマスターハンドからの手紙だよ）」

ドンキー「うほうほ（じゃあこの世界へ行けばいいんだな？）」

ディディー「うきゃうきゃ（そうだよ！）」

こうして二匹は走って行きました。

ヨッシーアイランド

緑ヨッシー「ねえこれなんだと思う？」

赤ヨッシー「えーとなんだろう？」

青ヨッシー「食べ物でもねーしな」

緑ヨッシー「これはスマブラの主催者からの手紙だよ！だから、これを持って僕は出かけるから留守番していてね」

クッパ城

カメック「クッパさま城にこんな手紙が・・・」

クッパ「何だと・・・」ボカッ

カメック「グへ〜」

クッパ「そうかそうか、よし！」

カメック「どうかされましたか？クッパ様？」

クッパ「5年くらい留守番しておいてくれ今から用事があるからな
！」

カメック「ごっ5年ですか？」

クッパ「そうだからと留守しとけよ！」

クッパは自分専用の飛行機で飛んでいった

そしてワリオは

???「ワリオ〜手紙だぜ〜」

ワリオ「何だワルイージそうぞうしいな！んっ手紙かかせっ！」ド
カン

ワルイージ「ぐぎゃ！」

ワリオ「フムフムよしワルイージちよつと行ってくる」

ワルイージ「んが？なんだ？ワリオどこか行くのか？」

ワリオ「ああちよつとな」

ワルイージ「俺も連れてってくれ」

ワリオ「駄目だぜ。じゃあな」

ワリオはバイクを取り出し走っていった。

ハイラル王国（城にて）

???「オーイゼルダ」

ゼルダ「あらリンクどうしました？」

リンク「こんな手紙が届いたんだよ。ゼルダも届いてる？」

ゼルダ「うんあるよしかも2つ・・・」

リンク「なぜ？」

ゼルダ「シークもだって」

リンク「そうだったね」

???「俺も誘われたぜ！リンク！」

リンク「お前はガノンドロフ！」

ガノンドロフ「ふんまたお前とやれるとは久しぶりだな」

???「ふふふふ・・・」

リンク・ガノンドロフ「いつの間になつていたんだ、シーク？」

シーク「面白すぎてマスクで隠しているんだよ。以降じゃないかこの世界の所に！」

シークは急にゼルダに戻った

ゼルダ「じゃあ行きましょう」

リンクたちは馬に乗って行きました。

もうひとつの国

???「ちゃんと行かしてくれるかな？」

???「何しているんだリンク？」

リンク（トゥーンリンク）「うわあ、驚いたよ、テトラ！」
テトラ「いや、さっきからこそしていたからなんだろうと思
ったからな」

トゥーン「いやさっきこんな手紙が届いて・・・」

テトラ「なら行けばいいじゃないか！」

トゥーン「ありがとう」

トゥーンリンクは船で行きました。

スターシップ内部

???「何かしら？いきなりでたこの手紙は？」

10分間後

サムス「ふーん。じゃあ行こうかな」

エンジエランド

???「わっいきなり紙が飛んできた！」

ピット「えーとなになに・・・よしじゃあ行こう！」

どこかの山

???「これ何、ナナ？」

ナナ「手紙でしょ、ポポ」

ポポ「うんそうだけどまあ一様読んでみよう・・・」

ナナ「じゃあ行きましょう」

ポポ「そうだね！」

二人は山を降りて行きました。

研究室

ロボット「エート、コノブンハますたーはんどカラデスネフムフム・
・デハイキマシヨウ」

プププランド

???「ぽよぽよ（ルンルン）」

???「おい、カービィ！」

カービィ「ぽよ、ぽよよ?（なに、メタナイト?）」

メタナイト「お前宛に手紙だ。しかし私にも届いているんだがな」
カービィ「ぽよ・・・ぽよっ!（ふーん・・・よし、行こう!）」

メタナイト「その意気だカービィ!」

???「待てゾイ!」

メタナイト「デデデ陛下もですか!」

デデデ「そうゾイ!我輩も行くゾイ!」

ホコタテ星のホコタテ運送会社

???「オリマー先輩手紙ですよ」

オリマー「ありがとうルーイ君・・・ふーん」

ルーイ「どうしました?先輩?」

オリマー「ちょっと社長に5年の休暇をもらえないか聞いてくる」
ルーイ「5年もそんなに休暇もらえないと思いますよ」

5分後

オリマー「もらえた・・・」

ルーイ「なぜ!?(すげ〜)」

オリマー「知らないよ」

フォックスとウルフとファルコ

フォックス「よし、ん?なんだメールか?誰からだろう?」

ファルコ「おいフォックス、お前のところにもきたのか」

ピコーンピコーン

フォックス「ムッ!」

ファルコ「奴のおでましか・・・」

ウルフ「だーれが奴だって?ムッなんだ、これは・・・」

フォックス「まさか!」

ファルコ「そのまさかだろうな」

ウルフ「フォックスまさかお前も・・・」
フォックス「ああそうだとも」
ウルフ「・・・・・・・・」

とあるレース場

???「うお～～」

???「むお～～」

2つの車がぶつかりあっていた

???「今日こそ負けないぞ、ファルコン！」

ファルコン「ほう勝つ自信があるのか、しかしお前の嫌いなカーブがあるぞ」

???「ぐわ～～」ドカ～～ン

ファルコン「よし勝った！」

???「おゝいファルコン手紙だぞ」

ファルコン「おおさんきゅうなになに・・・ほうそうか、すまんが俺一時レースができなくなる用事ができたすまん」

???「そうなの？なら仕方ないや」

ファルコン「行ってくるぜ！」

ポケモンギルド

ピカチュウ「へー」

ポッチャマ「どうしたの」

ピカチュウ「ちよつと親方様に聞いてくることのできたから聞いてくる」

10分後

ピカチュウ「やったー」

ポッチャマ「どうしたの？」

ピカチュウ「今日から5年間違う世界に行ってくると言ったら・・・

プクリン「行ってきたよ」・・・と言われちゃったよ」

ポッチャマ「じゃあなぜ10分かかるのさ？」

ピカチュウ「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」
ポッチャマ「言えないのか・・・」

ピカチュウ「まあ、僕は行く準備するからね。あっそういえばルカリオとプリンも同じこと言ってたよ」

ポッチャマ「プリンはともかなぜルカリオ〜〜!?!」

ピカチュウ「まあ、目的は同じなんじゃない? まあ、いいやいつてきまゝす」

ポッチャマ「行ってらっしゃい・・・」

マサラタウン

ポケモントレーナー(レッド)「よし、またこいつらを使えるなんて久しぶりだな」

オーキド博士「おおレッド君もう行く準備が出来とるのかね早いので」

レッド「あっ博士! はい今日のうちに出発するので」

オーキド博士「そうかいそくかい、では気お付けて行くのだぞ!」

レッド「はいっ、行ってきます!」

アカネイア大陸の城

???「あの・・・マルス?」

マルス「なに? 今行く用意しているからそこで用件を言って」

???「何の用意をしていらっしゃるのですか?」

マルス「何かって5年間違う世界の仲間たちと暮らすんだって」

???「そうですか・・・では、行ってらっしゃい・・・」

マルス「うん、行ってくる」

クリミア王国にあるグレイル傭兵団基地

???「よしこれで、いいな」

???「お兄ちゃん何しているの」

アイク「ん? ミストか?」

ミスト「いったい何しているの」

アイク「いや、どうしたらこのラグネルが入るか試しててんだが入らないだから、手で持っていくよ」

ミスト「いったいどこへ行くのよ」

アイク「前俺がいなかった日に行っていたところだ」

ミスト「ふーん、何か食べ物ほしい？遠いんでしょ？おにぎり作ってあげるからまって」

アイク「分かった」

オネット

???「ママ僕また行きたい場所があるから行っていい？」

お母さん「いつまでいるの、ネス？」

ネス「5年間・・・」

お母さん「5年間！？まあいいわ行ってきなさい」

ネス「ありがとうママ」

ノーウェア島タツマイリ村

???「ねえ父さん行ってきてもいいかな？」

フrint「そうだなあ、ヒナワにでも聞いてみるリュカ」

リュカ「お母さんに聞いてもいいないよ」

フrint「仕方がない、行ってこい」

リュカ「やったーありがとう。あつでもどうしようヘビヒモはダスターに返したしな」

フrint「また借りればいいじゃないか」

リュカ「うんそうだね」

平面世界

???「ぴぴぴぴ（さっそく行こう）」

即終了！

シャドーモセス島

「??? 「なんだ? いきなり無線が・・・こちらスネークなんだ?」

「??? 「スネーク! マスターハンドから手紙がきてるぞ!」

スネーク「ふむ、そうか、今戻る!」

ソニックたちが住んでいる世界

「??? 「おいしいソニック」

ソニック「Whatなんだい、テイルズ? but いまは忙しいんだ!」

テイルズ「ソニック探したよもうこんなところまでいるし」

ソニック「用がないなら行っちゃうぜ」

テイルズ「なぜ勝手に行くの?」

ソニック「Lookこれを見な」

テイルズ「へーそうなんだじゃあ行ってらっしゃい」

ソニック「行ってくるぜ!」

その前のみんなは行く準備 プロローグ（後書き）

長すぎた！

大変だ！

この先が思いやられる

マリオ「みんないるか？」（前書き）

また、大量に書くのかそれとも少なく書くかそれだけだ・・・
ルイージ「誰の真似？」

スマッシュ「誰でもない・・・」

マリオ「みんないるか？」

この世界・・・それは、世界中の人気キャラクターが集まる、マスタースターハンドの本拠地でもある場所だ。

そこに・・・

マリオ「ヤッホウ！」

ルイーダ「イエー！」

ピーチ「ちよつと待ってよ」

マリオ「遅いですよ」

ルイーダ「もうみんな来ているよ」

マリオ「オーイ、みんな！」

リンク「あつマリオさん」

フォックス「おせーぞ！」

マリオ「超有名人は最後に来るもんだ！」

全員「・・・・・・・・」

マリオ「あつ凍りついちゃった」

「？？」「みんなよくこれたな」

サムス「あつこの声は」

ファルコン「あいつだな」

ネス「うん、あいつだよ」

「？？」「あいつ呼ばわりするなよ！」

リュカ「でつ、僕たちをまた呼んで何するの？マスタースター？」

マスタースターハンド「うむ、今日からお前達はスマ村に住んでもらう」

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・え〜〜〜〜〜っ」

マスタースターハンド「スマ村でただ暮らしてもらうだけだが、大家族みたいでいいだろ！」

ルイーダ「まあ、いいんだけど・・・」

マスタースターハンド「実はここに5人の元ファイターがいるんだが・・・」

」
マルス「あれは！」

「???」 「やあ、マルスさん元気でしたか？ロイです！」

「???」 「あっピカチュウ！久しぶり、覚えてる？私、ピチューだよ」

「???」 「ふん！久しぶりだな、現スマッシュブラザーズよ。ミュウツーだ」

「???」 「あっ！大人の僕！久しぶり！ヤングリンクだよ」

「???」 「ムッ！昔の俺がちゃんというな元気にしていたか？Dr. マリオだ」

マルス「ロイ・・・」

ピカチュウ「ピチュー・・・」

ルカリオ「ミュウツー・・・」

リンク「わー、これでとうとう3人になってしまったよ」

マリオ「よっ、Dr. マリオ！」

マスターハンド「みんな久しぶりだろ！驚いただろ？」

「???」 「おい、マスター何しているんだ？」

マスター「おっ、クレイジー！」

クレイジー「あっ、久しぶりだな・・・みんなあまり変わってないな・・・」

マリオ「なぜ、スマ村に住まなければいけないんだ？」

マスター「暇だから」

全員「おいっ！」

マスター「まあいい、お前達さっさとスマ村に行け！」

マリオ「はいはい・・・」

マリオ「みんないるか？」（後書き）

やっとテスト終わったぞ！

あとは帰ってくるだけだ！

テスト何点かな？

マリオ「テストのこと気にしているのか・・・」

カービィ「作者のことだから点数悪いよ」

スマッシュ「失礼な！今回は案外答えたんだぞ！」

ルイージ「へへへ」

スマッシュ「なんだよ」（；0；）

そんなわけで大変だ！

到着と家族分け（前書き）

マリオ「やっと家に着くよ」
ルイージ「ほんとうだね」

到着と家族分け

とうとうスマ村へやってこれたファイター達
当たり前のように役場へ行く

役員「わー、こんなに来たら困ります!」

マリオ「住民票ください」

役員「住民票、どうぞ!」

マリオ「ありがとう、えーと・・・」

マリオ家 ファルコン家

オリマー家

スネーク家

マリオ ファルコン

スネーク

オリマー

ルイージ サムス

フォックス

ゲーム&ウォッチ

ピーチ リンク

ファルコ

ロボット

Dr. マリオ ゼルダ

ウルフ

ヨッシー マルス

レッド(ポケモン3

匹)

ワリオ アイク

ピカチュウ

ロイ

ピチュー

シーク

カービィ

ネス

リユカ

ピット

ポポ

ナナ

ヤングリンク

トゥーンリンク

おっさん家

ドンキー家？

メタナイト家

ソニック独り暮らしww

ガノンドロフ

ドンキー

メタナイト

クッパ

ディディー

ミュウツー

デデデ

ルカリオ

・・・だってファルコンのところ多いな・・・それにソニック（笑）

ソニック「What どうしたんだい？」

ソニックはメモを見て

ソニック「NO~~~~」

マリオ「では、各自の家へゴー！」

ソニック以外「おーー！」

ファルコン「ファルコン家の子供たちよいくぞ！」

ファルコン家子供「お~~~~！」

ファルコン家青年「おー」

次回、家の搜索

到着と家族分け（後書き）

ファルコン「本当に多いんじゃないか？」
スマッシュ「ああ、そうだね・・・」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問（前書き）

マリオ「みんなの家を作者が訪問するだど!？」

スマッシュ「うん、そうだよ。無理やりお邪魔させてもらうけど」

ルイージ「まあ、いいんじゃない? 兄さん」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問

1件目マリオ家

スマッシュ「邪魔するで〜」

マリオ「邪魔すんなら帰って〜」

スマッシュ「あいよ〜・・・って、おい！」

ルイーダ「いや、自分から言ってきたじゃないか！」

マリオ「んで、訪問しにきたのだな!？」

スマッシュ「これからみんながどんな生活をしていくのが楽しみでね」

ルイーダ「じゃあ上がってよ!ピーチ姫を呼ぶから!」

スマッシュ「うん」

マリオ「ヨッシーはその辺にいるけどワリオがどっか行きやがった」
スマッシュ「そうか・・・じゃあ、会ったらボコボコにしてあげるよ!」

マリオ（こわ〜）「うん、そうしてね・・・」

ピーチ「おまちど〜お菓子よ」

スマッシュ「どうもありがとう。まだ1日しかたっていないけど今の暮らしはどう？」

マリオ「案外この村は暮らしやすいね」

スマッシュ「ルイーダは？」

ルイーダ「この村は他に人はあまりいないけど案外楽しいよ!」

スマッシュ「そうですか・・・じゃあピーチは？」

ピーチ「あら、案外この村おもしろいですよ」

スマッシュ「そうですか!では、次に行くのでここで・・・」

マリオ「待てよ!部屋見ていけないのか？」

スマッシュ「それだと書くの疲れるからね」

ルイーダ「どういうこと？」

スマッシュ「いや、こっちのこと」

ピーチ「次ファルコン家に行くならお土産持って行ったら？作ってあげるから」

スマッシュ「ありがとうございます！」

2件目ファルコン家

ピーンポーン

サムス「ハロー」

がちゃ

スマッシュ「こんにちわ！」

ファルコン「はっはっは来たな、若者よ！」

スマッシュ「はい、家庭訪問みたいなもので来ました、それとお土産です。中に入れてくれませんか？」

ファルコン「どうぞどうぞ！はいってはいって！」

スマッシュ「お邪魔します」

サムス「お茶とさっきのお土産のお菓子よ」

アイク・リンク・シーク・ゼルダ・ネス・リユカ「ハロー・・・」

ロイ・マルス・ポポ・ナナ・カービィ・トゥーン・ヤンリン「わー

い！お菓子だー」

ばくばくばくばくばくばく

スマッシュ「やっぱり少なかったかな？まあいいや、どうですか？今の暮らしは？」

ファルコン「代表として言おう。思いっきり愉快だぞ！はっはっは！」

スマッシュ「そうですか！他に役割とか決めているのですか？」

サムス「そうねえ・・・。シークとリンクとゼルダは特に決めています。他はないですね」

シーク・リンク・ゼルダ以外全員（アイク昼寝中）（笑）「えっ！？」

スマッシュ「どんな役割ですか？」

サムス「シークは料理以外のことをリンクとゼルダは料理と一緒に

作ってもらいます。特にリンクはお菓子を作ったりしますよ。」

スマッシュ「そうですか！一回食べてみたいですね！」

リンク「どうも、ありがとう。ついでに、これ食べてください！」

スマッシュ「なんだい、これは？」

リンク「それは、いちごタルトです。一生懸命作りました！」

パクッ

スマッシュ「うまい！」

リンク「ありがとうございます！」

スマッシュ「ついでに僕も料理ぐらいできますよ」

リンク・アイク・シーク・ゼルダ・ネス・リユカ・ファルコン・サ

ムス以外「すごい！」

わいわいわいわいわいわいわいわいわ

（書くの面倒くさいな、この家・・・）

スマッシュ「では、ありがとうございました」

3件目おっさん家

スマッシュ「ついに来てしまった・・・ここが加齢臭がぷんぷんする場所だ・・・」

クッパ・デデデ・ガノン「誰が加齢臭だ！」

スマッシュ「ちゃんと換気してくれよな！家ぼろくなっちゃうだろ！」

クッパ「だってよ、デデデが「虫は嫌いゾイ！」って言うからだ！」

デデデ「何だゾイ？悪口を言ってるゾイか？」

スマッシュ（早くこんなところから出たい・・・）「で、今の住み心地は？」

ガノン「まあ、いいところだ！」

スマッシュ「そうですか、では、さよなら！」

4件目スネーク家

スマッシュ「やっと、おっさん達から抜け出せた・・・今度はスネ

ーク家です」

ガラッ！

スマッシュ「邪魔するぞ！」

スネーク「きたか！」

フォックス「ギャグにのれよ！この馬鹿親父！」

スマッシュ「あのく……」

ファルコ「いつもの事さ、こっちに来な……」

レッド「あつ、来ましたね！いま、おやつの用意をしていたんです
！」

ピカチュウ「そうだよ！僕とピチューはレッドの手伝い！」

ピチュー「うん！」

スマッシュ「そうか、手伝い頑張れよ！ところでウルフは？」

ファルコ「向こうにいるぜ！何してるかはわからないけどな！」

スマッシュ「ふーん」

フォックス「行かないほうが身のためだぜ！」

スマッシュ「なぜ？」

フォックス「危ない物が飛んでくるからさ」

スマッシュ「……」

レッド「用意できましたよ！」

スマッシュ「これはすごいな」

レッド「りんごを使ったお菓子です食べてください！」

スマッシュ「いただきます」

もぐもぐ

スマッシュ「うまいよ！」

レッド「どうもありがとう！」

スマッシュ「ところで聞くけど今の暮らしどう思う？」

スネーク「家族代表で言うぞ！楽しいそれだけだ！」

フォックス「本当にそれだけかこのやろう！」

スマッシュ「彼ら仲がいいんですね……」

ファルコ「いつもケンカしているぜ……」

レッド「……………」

スマッシュ「どうもありがとうございました!」

5件目オリマー家

スマッシュ「続いてオリマー家です。中はどうなっているのでしょうか?」

ウィーン

オリマー「いらっしやいませー、あっ!」

ゲムヲ「アッ、キタノデスネすまっしゅサン」

ロボット「奥二行ッテオイテクダサイ。後デ行クノデ」

……

オリマー「おまちどうさまです!」

スマッシュ「わー!すごい!」

ロボット「けーきヲ持ッテキマシタ、ドウゾ好キナけーきヲ取ッテ下サイ」

スマッシュ「チーズケーキにするよ!」

ゲムヲ「ワカリマシタ。ドウゾ」

スマッシュ「ありがとう!」

オリマー「ついでに紅茶を入れてきました」

スマッシュ「どうも。ところで今の住み心地はどうですか?」

オリマー「私たちはここに住めたおかげでケーキ屋まで作ってしまいました。楽しいです!」

スマッシュ「わかりました」パクッ

スマッシュ「じゃあね!」

道端

スマッシュ「ムッ!ワリオがいた!よし!ボコボコにしよう!」

ワリオ「うへゝ暇だゝ」

スッ!ガシッ!

ワリオ「なんだゝ?」

スマッシュ「ちよつとごめんね」
ボカッ！ドカッ！バキッ！ボキッ！
ワリオ「ぎゃーーーーー」
スマッシュ「ふーっおっさん家に行ったときのストレスが発散できたよ。さてこいつどうしよう……まあ、とりあえずマリオ家に届けるか！」

マリオ家 本日二回目

スマッシュ「よし来た！」

ピンポン

マリオ「誰だ？」

スマッシュ「スマッシュです」

ガチャッ

マリオ「よう！スマッシュ……わっ！ワリオか、驚いたー」（本

当にボコボコにしてる）

スマッシュ「どうぞこれおみやげです」

マリオ「お土産って、これか？」

スマッシュ「そうだよ？どうしたの？」

マリオ「いいや何もないけど、ありがとう」

それぞれの家にどんな暮らしをしていくかを訪問（後書き）

スマッシュ「言っとくけど次回から後書きをスマッシュブラザーズの日記にするから1人ずつ書いてくれよ！」

全員「えーーーーー！」

と、いうことで次回から順番に日記を書いていきます！

作者家！（前書き）

マリオ「作者たちがこのスマ村へ住みつくそうだ」

全員「え〜〜〜〜」

作者達「うるさい！」

作家家!

スマッシュ「ちよつとごめんよ」

役所の人「ちよつと!」

スマッシュ「この村にいるスマッシュブラザーズ!ただちに役場まで来い!」

1分後・・・

マリオ「なんだ?スマッシュ?」

スマッシュ「今日から作者達がここに住むぞ!」

全員「・・・・・・・・・・」

しばらく沈黙・・・

全員「えーーーーーーー!」

2分後

スマッシュ「さっそく来たな、おーい!」

???「こんにちわ!」

???「やあ」

???「やつと、ここに来れたよ」

???「でも、タクシー5台は・・・」

???「まあ、いいんじゃない」

???「疲れたな」

???「あつ!みんなだ、おーい!」

???「みんな、遅刻もせず早いね」

???「男ばっか・・・」

???「早く家行きたい・・・」

スマッシュ「みんな、来てるね!これから作家すなわち作者の家にいるからね。まあ、名前を覚えてくれ!」

しら「僕はしらよろしくね!ついでに僕は『スマブラ〇〇中』を書

「いてるよ！」

ryouki「僕の名前はryoukiだよ。僕は『スマブラメンバー』の新しい家?』を書いてます」

「パルポンは俺はパルポンだ。俺は『テイズル』の話を書いているよ」
「ほーき雲はほーき雲です！ 僕が書いてる小説は『スマブラ』な
どを書いています」

ギルバード「俺はギルバード・デュランダルと言う名前です。書いてるのは『俺キャラ×スマブラ×作者さんオールスターズ 逃走中』を書いてるぜ！」

夢幻∞「俺の名前は夢幻∞だ！今書いてる小説は『スマッシュハンターブラザーズ』だ！」

死神魔姫「俺は死神魔姫だよ。俺は『大乱逃走中』を書いてるからな！」

瑞希 優羅「私は瑞希 優羅です。書いてる小説は『スマブラで逃走中やっちゃうよー☆』を書いてます!」

ゆうたん「ぼくはゆうたんだよ。小説は『スマブラX・ぷよぷよ7で逃走中』を書いてるよ」

スマッシュ「以上これから作者家に住む人達だよ！」

「ファルコン」スマッシュの作った作者の家……小さかったよな？」

スマッシュ「僕が頑張って借金を払ったんだよ！だから今は学校の校舎と同じくらいだよ」

全員「えっ!？」

マリオ「いつの間に!？」

スマッシュ「まあ、見てなくても仕方がないよ。夜の間に借金返してたから」

リンク「でも、4日でそれは早すぎではないですか？」

スマッシュ「僕の小遣い1000000000000ベルだからね」

全員達「えーーーーー!」

作者「凄すぎる！」

マリオ「どんだけ貰ってるんだー！」

スマツシュ「でも今貯金してるからね。家にあつたら狭くなるよ」
ルイージ「そうだよね」

スマツシュ「じゃあ作者さん達以外解散！」

スマツシュ「じゃあ、家に行こう！」

作者達「そうだね・・・」(金すごいな・・・)

次回、作者家の中！

作家家！（後書き）

今日、僕のかけてる眼鏡が崩壊したよ・・・

マリオ「何してそうなったんだよ！」

スマッシュ「拭くもので拭いたら壊れた・・・」

マリオ「だから眼鏡変わってるんだな！」

スマッシュ「そうだよ」

作家家の中（前書き）

すみません・・・竜斗さん書くの忘れてました！
日記忘れていた・・・今回から書かせる！

作者家の中

スマッシュ「着いたよ！」

作者達「ここか！」

見たところ案外すごい豪邸になっていた

スマッシュ「頑張ったんだぞ！」

作者達「いや、頑張ってないだろ！」

スマッシュ「まあ、そんなことはいいや、入って入って！」

中

しら「すごい広いですね！」

ryouki「そうですね、思ったより広いよ」

パルポン「ここに持つてるもの置いていいか？」

スマッシュ「置いていいよ！もう、僕達の家なんだから」

竜斗「部屋はいくつあるんですか？」

スマッシュ「ざっと20部屋ぐらいかな？」

ギルバード「多！」

死神魔姫「これからここで暮らすんですね！」

夢幻∞「じゃあスマブラの人たちの所へも遊びに行ってもいいのかな？」

な？」

スマッシュ「遊びに行ってもいいですよ！」

ほーき雲「わーいわーい！」

ゆうたん「でもどうするの？」

スマッシュ「とにかく解散！」

ゆうたん「僕はこの家に残るよ」

瑞希 優羅「私は今、店に行って買い物してくる・・・」

スマッシュ「これカタログ」

瑞希 優羅「ありがとう」

しら「じゃあ、服買おう！」

ryouki「僕も買うよ！」
スマッシュ「僕も買おうかな？」

店

瑞希 優羅「これとこれとこれください！」
店員「はい、わかりました！」

服屋

スマッシュ「この帽子欲しい！買おう！」
店員「ありがとうございます！」
しら「みんなの服買わないとね！」
ryouki「じゃあ全部」
しら・スマッシュ・店員「えっ!？」

店の外

しら・スマッシュ「重いよ」
ryouki「ごめん・・・」

家

ゆうたん「わっ！よく、こんなに買ってきましたね！」
ryouki「まあね」
しら・スマッシュ「・・・・・・・・」
瑞希 優羅「ただいま」
4人「お帰り！」
スマッシュ「何を店に買いに行ったの？」
瑞希 優羅「家具を大量予約してきたの。これメモ」

メモ

請求書

ベット10個	198000ベル
机(大)3個 (小)5個	596000ベル

椅子20個	100000ベル
クローゼット10個	99000ベル
ランプ20個	50000ベル
絵20個	100000ベル
冷蔵庫1個	3980ベル
キッチン1個	6980ベル
コップ10個	10000ベル
皿30枚	19800ベル
なべ5個	5000ベル
フライパン2個	2960ベル
はにわ10個	13000ベル
化石10体	100000ベル
落とし穴の種100000個	1000000ベル
その他30種類	100001768320ベル
服代(帽子も)	10000000000ベル

4人「おもいつきり書いてるな・・・」

しら(しかも、はにわ)

ryouki(おっ落とし穴の種100000個・・・しかも1個1ベル・・・)

ゆうたん(買いすぎだよ・・・)

スマッシュ(あと、979998231680ベルか・・・まだまだあるね！)

瑞希 優羅「買いすぎたかな？」

4人「あははははは(焦)」

作者家の中（後書き）

今日の日記 書いた人 マリオ
今日服屋行ったら服が全て売切れになっていた・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261y/>

スマ村のみんなの生活

2011年11月30日22時49分発行